

令和5年度 学校自己評価書

小美玉市立竹原小学校 校長 狩谷 秀一

1 今年度の取り組みの概要

学校経営の基本方針を「楽しく元気な学校づくり」とした。基本方針を実現させるため、①「主体的・対話的に学び、分かる喜びを得られる学校」②「あいさつから始まる温かい人間関係で満たされる学校」③「活躍のチャンスがあり、チャレンジでき、チャンピオンになれる学校」④「保護者や地域と連携・協力し環境の整った美しい学校」の各項目について具現化に努める。そして特に「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「活力の育成」について、達成目標を設け具体的な方策の実践に取り組む。

<達成度 A:十分に達成 B:おおむね達成 C:達成せず D:課題が残る>

◎ 組織目標 1 についての具体的な取り組み

組織目標 1			
達成目標	具体的な方策	実施結果	達成度
確かな学力の育成 ○自分の考えを分かりやすく表現したり、記述したりする指導を充実することを通して、確かな学力を育成する。	◎ICT 機器の効果的な活用 ・指導の個別化、学習の個性化 ・課題解決に向けた協働的な学び ・タブレット活用の工夫 ◎自分の考えを表現できる力の育成 ・話す活動の充実 ・書く活動の充実 ・体験活動の充実 ○特別支援教育の充実 ・インクルーシブ教育の推進 ○家庭学習の習慣化 ・低 20 分、中 40 分、高 60 分以上 ◇自分の考えを表現できる。80%以上 ◇授業が分かる。80%以上	・校内での相互授業参観や美野里地区小中一貫教育に係る相互授業参観を実施することを通して、授業力の向上を図ることができた。 ・タブレットを使った学習に、授業や家庭でも抵抗感なく取り組める児童が増えた。 ◇自分の考えを表現できる。85% ◇授業が分かる。92%	A
豊かな心の育成 ○「あいさつ、あとしまつ、ありがとう」を大切に、人と関わり合える豊かな心を育成する。	◎元気なあいさつの実践 ・児童主体のあいさつ運動 ◎絆づくりと居場所づくり ・絆づくり (学級づくり・縦割り活動) ・一人一人の居場所づくり ○きれいな学校づくり ・整理整頓の常態化 ・師弟同行清掃 ○感謝できる心の育成 ・考え、議論する道徳 ・「ふれあい集会」の工夫 ◇挨拶ができる。90%以上 ◇学校が楽しい。90%以上	・元気な挨拶ができるように、月初めに代表委員や各学年の児童が正門前に立って挨拶運動を行った。 ・昨年度までに登校が難しかった児童が、登校できるようになり、児童間のトラブルの減少も見られている。 ◇挨拶ができる。87% ◇学校が楽しい。93%	A
活力の育成 ○小さなことも「認め、ほめ、ともに喜ぶ」ことを通して、一人一人の持ち前を育む。	◎活躍の場づくり ・一人一役の係、委員会活動 ・実行委員会活性化 ・積極的生徒指導 ◎運動の日常化 ・休み時間の確保(外遊び奨励) ・サーキットトレーニング ○保健安全教育の充実 ・安全教育の推進 ・感染症予防教育の充実 ○基本的生活習慣の確立 ・早寝・早起き・朝ごはんの推進 ◇早寝・早起き・朝ごはんを実行できている。90%以上	・学級活動や学校行事を通して、小さなことも「認め、ほめ、ともに喜ぶ」ことで、一人一人の持ち前を育み、自己肯定感を高めることができた。 ◇自分は誰かの役に立っている。83% ・感染症や熱中症対策しつつ、「外で元気に遊んだり、運動したりする」機会の確保に努めることができた。 ・体育の時間に加え、休み時間の外遊びを励行したり、体育的行事や集会の充実を図ったりすることで、体力の向上が図られた。 ◇早寝・早起き・朝ごはんを実行できている。85%	A

2 今年度の成果と次年度に向けた課題

○学力向上について

確かな学力の育成として、ICT機器の効果的な活用、特別支援教育の充実、読み取る力・筋道立てて考える力の育成、家庭学習の習慣化を柱として取り組んできた。校内研修においては、タブレット端末の活用を中心としたICT機器の効果的活用について研修を重ね授業改善を図った。また、家庭学習や自主的な学習活動では、タブレット端末の活用を推進した。

本校の県学力診断のためのテストの結果から、正答率に学年間の差がみられる。また、各教科においては、自分の考えを表現すること（アウトプット）に課題がある。そのため、次年度に向けて補充学習を実施し、文章表現を中心にして学力の向上を図る。今後も誤答傾向の分析などをさらに進め、授業の改善を図る。

○豊かな心の育成について

今年度の組織目標「児童の自己肯定感を向上させよう」に基づき、挨拶については、声に出して挨拶を交わすことを教師が範を示し、習慣付けてきた。特に、元気な挨拶ができるように、月初めに代表委員や各学年の児童が正門前や昇降口に立って挨拶運動を行ってきた。学級においては、小さなことも「認め、ほめ、ともに喜ぶ」ことで、絆づくりや居場所づくりを行い、自己肯定感を高めるようにしてきた。そして、学校ボランティアなどでお世話になっている方々に感謝の気持ちを伝える場を設けることで、感謝できる心の育成を図ってきた。次年度は、校外学習や運動会、レクリエーション、田植え・稲刈り等の学校行事を通して、各団体の絆を深める。

人権を意識した学校生活について職員間で確認し、教師が人権感覚や人権意識をもつことで、児童に人権を大切にすることを伝えられるようにした。道徳の時間には、対話場面でタブレット端末を効果的に活用するなどして、道徳性の向上に努めた。幼小連携では、次年度もよつば幼稚園との連絡調整を定期的に行い、運動会の合同実施や低学年・特別支援学級との交流学習、幼稚園の発表会の参観を通して交流を更に深める。特に、幼稚園児とのふれあい活動など道徳の授業と結びつけた行事等を意図的に設定し、豊かな心の育成につなげていきたい。

○活力の育成について

活躍の場づくりとして、ふれあい集会においては日頃からお世話になっている方々へ感謝の気持ちを伝えることができた。また、150周年記念集会に向けての実行委員会を組織し、児童主体での活躍の場を設定し取り組んできた。運動の日常化については、なわとび集会や持久走大会に向けて児童一人一人が自分の目標をもって取り組み、全校児童で走ったり練習したりすることができた。休み時間には多くの児童が運動場に出て、活発に運動に取り組む姿が多く見られるようになった。保健安全教育では、外部講師を招いての避難訓練やいのちの安全教室を実施し教育効果を高めることができた。基本的な生活習慣の確立については、食習慣に課題が残った。好き嫌い無く給食が食べられるよう栄養教諭や家庭と連携し、食習慣の改善に努めていきたい。

3 保護者や地域への皆様へ

- 学校経営の基本方針を「楽しく元気な学校づくり」とし、学校全体として「児童の自己肯定感を向上させよう」を組織目標として取り組んできました。挨拶については、教師が範を示し、声に出して交わすことを習慣付けてきました。また、元気な挨拶ができるように、月初めに代表委員や各学年の児童が正門前や昇降口に立って挨拶運動を行ってきました。学級においては、小さなことも「認め、ほめ、ともに喜ぶ」ことで、絆づくりや居場所づくりを行い、自己肯定感を高めるようにしてきました。また、学校ボランティアなどでお世話になっている方々に感謝の気持ちを伝える場を設けることで、感謝できる心の育成を図ってきました。今年度は、校外学習や運動会、レクリエーション、田植え・稲刈り、150周年記念集会等の学校行事を通して、各団体の絆を深めてきました。また、保護者や地域の協力を得ながら、教育活動を充実させ、児童一人一人の成長を促す活動に積極的に取り組みました。

- 児童の学校生活アンケートでは、「学校に来ることが楽しい」と答える児童が約93%。また、「早寝・早起き・朝ごはんを実行できている。」については、できていると回答した児童が85%と基本的な生活習慣の定着が見られました。

- 学校運営協議会委員の方々からのご意見

- ・挨拶については、保護者への啓発活動を授業参観やPTA総会等で伝えた方がよい。
- ・児童数の減少については、学校運営協議会と地域学校協働活動の活性化がさらに必要だと思う。
- ・授業参観では、子供たちが生き生きと授業を受けているのがよかった。道徳授業では「命の大切さ」を扱った授業がよかった。
- ・150周年記念集会では、各学年の発表に工夫が見られ子供たちの笑顔で活動している様子の頼もしさを感じた。
- ・美野里太鼓の演奏がよかった。竹原小の児童の体験する場があったり美野里太鼓に入っている本校児童の演奏もあつたりしてよいアピールになっていた。

貴重なご意見をありがとうございました。今後の教育活動につなげていきたいと考えます。